

大野地区まちづくり指針

－ 大野の自然と地域の絆を次世代へ「つなぐ」まち －

平成31年1月

大野地区まちづくり協議会

*** 目 次 ***

第1章 大野地区まちづくりの基本的な考え方	...	1
第2章 大野地区の概要	...	2
1. 大野地区の概要	...	2
2. 大野地区の人口推移・構成	...	3
第3章 大野地区の将来ビジョン	...	4
1. 基本理念	...	4
2. 目標	...	4
第4章 大野地区における「まちづくり」の重点項目と取組事項	...	5
1. 「まちづくり」の重点項目と取組事項	...	5
2. 大野地区まちづくり協議会の活動体系	...	8
第5章 大野地区まちづくり協議会の組織体制	...	9

第1章 大野地区まちづくりの基本的な考え方

大野地区は、大野小学校・大野公民館を中心として、大野地区地域福祉活動計画実行委員会（以下、「実行委員会」という。）や大野公民館運営協力員が「まちづくり」を展開してきました。

大野地区まちづくり協議会は、実行委員会に大野公民館運営協力員や様々な分野の方々が加わることで、実行委員会を発展・拡大させ組織した協議会です。

そのため、これまでの大野地区における様々な活動を継続しながら、大野地区まちづくり協議会が、人と人を“つなぐ”ことで、発展的に「まちづくり」を進めることを基本的な考えとします。

また、大野地区すべての住民が、これまでの「まちづくり」、これからの「まちづくり」に誇りを持ち続けるとともに、市内外に発信していきます。

大野地区まちづくり協議会の将来ビジョンをはじめ、重点項目、取組事項を大野地区まちづくり指針として、ここに示します。



大野小学校

第2章 大野地区の概要

1. 大野地区の概要

(1) 大野地区の位置



(2) 大野地区の歴史

昭和30年3月に守谷町が誕生するまでは、大野村として単独で村政を敷いており、合併前の昭和29年7月時点の大野村の人口は、2,500人弱でした。

昭和33年9月に、現在の大野公民館である大野小学校講堂兼公民館が完成しています。昭和35年4月に役場大野支所が廃止となり、守谷町役場へ事務が統合されます。この頃の守谷町の人口は、11,449人（第9回国勢調査）です。

昭和53年3月に大野小学校の新校舎が完成し、平成2年10月には創立100周年を迎えています。

また、平成5年には、アサヒビール茨城工場を中心とする「もりや工業団地」が竣工を迎えました。

「もりや工業団地」の竣工は、大野地区を大きく変えるものではありませんでしたが、昔ながらの田園風景は、今も残り緑豊かな自然に囲まれた地区です。

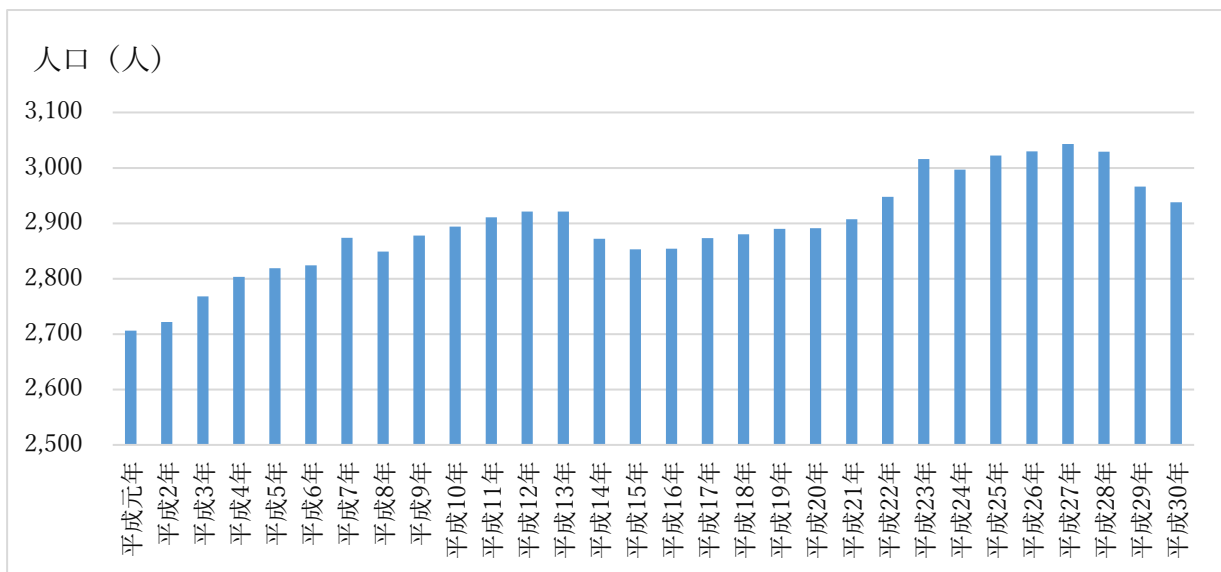
2. 大野地区の人口推移・構成

(1) 人口推移（各年4月1日現在/常住人口）

大野地区の人口は、合併前の昭和29年の人口と比較すると500人弱の増加があったものの、守谷市全体の爆発的な人口増加とは異なり緩やかなものです。

しかしながら、平成27年をピークに緩やかに減少に転じています。

年次	平成元年	平成10年	平成20年	平成27年	平成30年
人口	2,706人	2,894人	2,891人	3,043人	2,938人



(2) 人口構成

（平成30年11月現在）

区 分	市全体	大野地区全体	野木崎	大柏
年少人口割合 （0～14歳）	15.51%	13.75%	12.94%	14.50%
生産年齢人口割合 （15～64歳）	62.54%	57.19%	55.57%	58.70%
老年人口割合 （65歳～）	21.96%	29.06%	31.49%	26.80%

※ 老年人口割合については、野木崎において30%を超えており、非常に高い状況です。

第3章 大野地区の将来ビジョン

大野地区まちづくり協議会は、基本理念を掲げ、それを実現するために目標を持ち、将来ビジョンとします。

1. 基本理念

大野の自然と地域の絆を次世代へ「つなぐ」まち

大野地区まちづくり協議会は、実行委員会を発展・拡大させ組織しているため、実行委員会が掲げてきた基本理念を継承します。

2. 目 標

大野地区まちづくり協議会は、目指すべき理想の地域を目標として3つ掲げます。
基本理念を持ち、理想の地域を目標として掲げ、大野地区全体で共有し取り組むことで、人と人がつながり、将来ビジョンを実現します。

目標1 助け合う・支え合う地域の絆づくりを目指します。

目標2 安全・安心に暮らせる地域を目指します。

目標3 「ひと」が育ち“つながる”地域を目指します。

第4章 大野地区における「まちづくり」の重点項目と取組事項

1. 「まちづくり」の重点項目と取組事項

将来ビジョンを実現するために、大野地区における「まちづくり」に特に重要である項目を重点項目として、各目標に掲げます。

目標1 助け合う・支え合う地域の絆づくりを目指します。

重点項目1 地域で助け合う・支え合う仕組の構築

少子高齢化社会における様々な課題を解決するために、誰もが、助け合い、支え合う仕組を構築し、活動します。

重点項目2 多世代が集う場の創出

子どもから高齢者まで多世代が交流し、絆づくりを進めるために、多世代が集う場を創出します。

重点項目3 健康づくり・生きがいづくりの推進

健康寿命¹を延ばし、元気で楽しく生活を送るために、健康づくり・生きがいづくりを推進します。

☑ 取組事項・・・・・・・・・・・・・・・・

- ① 助け合う・支え合う仕組づくり ② 地域福祉まっりの開催
- ③ 地区敬老行事の開催 ④ 交流事業の実施
- ⑤ サロン事業の実施

☑ 担当チーム・・・・・・・・

- ▣ 地域福祉チーム

¹ 健康寿命とは、健康上の問題がない状態で日常生活を送れる期間

目標2 安全・安心に暮らせる地域を目指します。

重点項目1 防災活動の推進

災害を未然に防ぐ活動や災害が起きた際の活動を大野地区全体で取り組むために、自主防災組織の設立や防災訓練を実施することで、防災活動を推進します。

重点項目2 防犯活動の推進

犯罪を未然に防ぐため、防犯パトロールを実施するとともに、子どもの見守りにも注力し、防犯活動を推進します。

重点項目3 交通安全の確保

ソフト面では、子どもたちの登下校の交通安全を確保するとともに、子どもから高齢者を対象とし、交通安全教室を開催します。ハード面では、通学路・生活路といった道路網の安全確保を検討し、市や県へ要望活動を行うことで交通安全を確保します。

☑ 取組事項・・・・・・・・・・・・・・・・

- | | |
|----------------------|--------------|
| ① 自主防災組織の設立 | ② 防災訓練の実施 |
| ③ 消防団との連携事業の実施 | ④ 防犯パトロールの実施 |
| ⑤ 交通安全教室の開催 | ⑥ 子どもの見守り |
| ⑦ 通学路・生活路における安全確保の検討 | |

☑ 担当チーム・・・・・・・・

- ▣ 交通・防災・防犯チーム

目標3 「ひと」が育ち“つながる”地域を目指します。

重点項目1 多世代が活躍する場の創出

大野地区に住む住民が自ら教える・教わる場のような活躍する場を創出することで、「人」が育ち“つながる”ことを進めます。

重点項目2 青少年育成の推進

子どもから青年まで、大野地区の「まちづくり」を理解し、参画してもらうことで青少年育成を推進します。

重点項目3 人材育成の推進

「まちづくり」は、単年度で終わるものではなく、将来に向かって永続的に続くものであるため、次世代を担う人材育成を推進します。

重点項目4 自然環境の保全・継承

大野地区には、昔ながらの田園風景が広がり、多くの緑に囲まれた自然環境豊かな地区です。この自然環境を保全し、次世代へ継承するための活動を推進します。

☑ 取組事項・・・・・・・・・・・・・・・・

- | | |
|---------------------|-----------------|
| ① 大野ふれあいまつりの開催 | ② 教える・教わる場づくり |
| ③ 各団体等の活動支援・連絡調整 | ④ 情報発信 |
| ⑤ 活動拠点のあり方の検討 | ⑥ 自然環境の整備・保全 |
| ⑦ 自然を生かした健康・生きがいつくり | ⑧ 自然環境に触れる機会の創出 |

☑ 担当チーム・・・・・・・・・・・・・・・・

- まちづくりチーム

2. 大野地区まちづくり協議会の活動体系

大野地区まちづくり協議会は、3つのチームを置き、目標を実現するための重点項目を各チームが実践します。

将来ビジョン		重点項目	担当
基本理念	目標		
大野の自然と地域の絆を次世代へ「つなぐ」まち	1 助け合う・支え合う地域の絆づくりを目指します。	1 地域で助け合う・支え合う仕組の構築 2 多世代が集う場の創出 3 健康づくり・生きがいつくりの推進	地域福祉チーム
	2 安全・安心に暮らせる地域を目指します。	1 防災活動の推進 2 防犯活動の推進 3 交通安全の確保	交通・防災・防犯チーム
	3 「ひと」が育ち“つながる”地域を目指します。	1 多世代が活躍する場の創出 2 青少年育成の推進 3 人材育成の推進 4 自然環境の保全・継承	まちづくりチーム

第5章

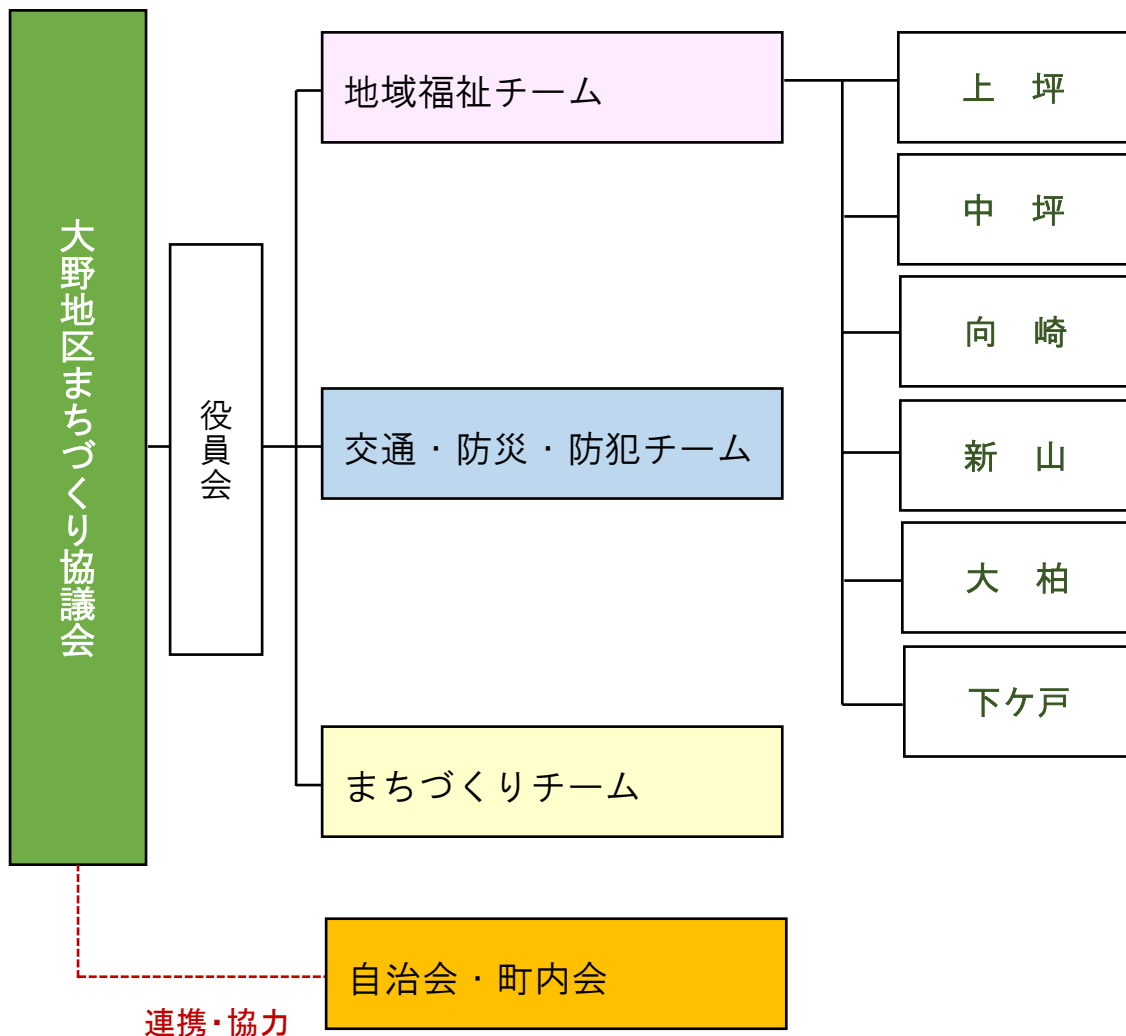
大野地区まちづくり協議会の組織体制

大野地区まちづくり協議会は、取組ごとに3チームで構成します。

これまでの実行委員会の活動は、地域福祉チームが、継続することになります。なお、地域福祉チームは、実行委員会の活動と同様に上坪・中坪・向崎・新山・大柏・下ヶ戸で活動を展開します。

また、大野公民館運営協力員の事業として開催していた大野ふれあいまつりについても、大野地区まちづくり協議会が大野地区一丸となり開催することになります。

さらに、「まちづくり」については、自治会・町内会と一緒に進める必要があるため、各活動については、自治会・町内会と連携して取り組みます。



大野地区まちづくり指針

策定年月 | 平成31年1月

策定者 | 大野地区まちづくり協議会